

(課程博士・様式9)

愛知教育大学・静岡大学大学院教育学研究科

学位論文審査報告書

審査委員

審査委員長 野地 恒有
委員 竹川 慎哉
委員 中野 真志
委員 稲葉 みどり
委員 白畑 知彦
委員 _____
委員 _____

審査期間 令和3年 11月 22日 から 令和4年 1月 17日

審査論文

An Empirical Study of Cognitive Linguistics-Based Instruction for

Effective English Phrasal Verb Acquisition

認知言語学的アプローチによる英語句動詞の指導と習得に関する実証研究

専攻 共同教科開発学専攻

氏名 中川 右也

生年月日 昭和55年8月11日

提出日 令和3年11月12日

この論文は、英語教育に関する実践を基にした理論的、実証的研究である。特に、言語学の道具立ての1つであるイメージ・スキーマを援用した静止画や動画のイラスト教材を用いることの有効性を、4つの実験を通して検証したものである。論文は、次の7章で構成されている。

第1章では、博士論文全体の構成および教科開発学的観点からの本研究の位置づけを明確に示している。第2章では、本研究が基盤とした認知言語学や、句動詞習得の背景となる第一言語・第二言語習得論、教育方法学、教材論などの諸分野の先行研究を概観し、本論文の研究課題を設定している。第3章では、イメージ・スキーマに基づいたイラストを使った句動詞指導の有効性を検証し、その効果を明らかにしている。第4章では、認知言語学的アプローチによる句動詞の teachability (教えやすさ) に焦点を当て、指導者が認知言語学の知識を有しているか否かが、学習者の習得に影響を与える可能性があるかどうかを検証し、認知言語学的アプローチの teachability が確認されたことを報告している。第5章では、認知言語学に依拠する学習法の learnability (学びやすさ) について、学習者の英語力や学力などとの関連から探っている。その結果、認知言語学的アプローチを使って句動詞を学習した場合には、学習者の英語力や学力との関連が全くないわけではないが、関連性を少なくして学習効果をあげられることを明らかにしている。第6章では、帰納的学習を実施するために、ジグソー法を基にした句動詞習得におけるアクティブラーニング型授業を提案し、その効果を実証している。最終章である第7章は、この論文で実証した4つの研究成果とその課題をまとめ、句動詞学習法に関する今後の研究の方向付けを行っている。

この論文は、理論、実践、検証、考察等が精緻に記述され、データや資料も添付され、詳細なデータに基づく分析や考察が行われており、この分野の実証的研究としては先駆である。また、句動詞の指導、アクティブラーニング等、英語教育の今後の発展に多くの示唆を与える教科開発学的観点からの論考であり、本教科開発学専攻の学位論文に値するものである。

以上から、博士(教育学)の学位を授与するにふさわしい内容であると認める。